

平成29年度 事業報告書
(平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日)

1. 自立奨学支援事業

(1) 制度について

多くの子ども達が本財団の支援制度に期待している実態より、過去の実績並みの予算を確保し、定例枠150名に2017年度特別枠50名を加えた合計200名の支援とした。昨年度に引き続き、今年度も支援者を応募者数に合わせ、就職者と進学者を同一比率に選考支援した。

また、募集要項に、楽天生命保険を始めとする大口寄付者のご紹介を掲載した。全国の多くの方々によって支えられている制度であることを、支援希望者に直接周知することができた。

(2) 応募状況

10月作成の「未来のつばさ自立奨学支援制度」応募要項を全国の児童養護施設、児童相談所、社会福祉協議会等へ発送し同時に財団ホームページに掲載した。今年度は、広報誌とともに応募要項を発送したため、10月23日の発送となった。応募申請は11月より受付を開始し、締切を12月22日とした。応募者数は自立(就職)希望者が234名、奨学(進学)希望者が333名、障がい児48名、合計615名を受理した。今年度、応募者数は過去最高となり、進学希望者の応募が大幅に増加した。

(3) 審査体制

10月26日開催された選考委員会にて選出された審査委員による第1次審査は審査員を3チームに分け、申請者1人に3人の審査員の平均点を評価点とした。

【1次審査】

チーム	構成員	審査期間	人数
A	財団関係者	12月12日～1月18日	7名
B	協力員	1月9日～1月26日	4名
C	楽天生命ボランティア	1月15日～1月31日	24名

【2次審査】

審査日 : 平成30年2月5日

審査員 : 選考委員

(4) 選考結果

本年度は当初計画に2017年度特別枠(50名)、および「書き損じはがき」寄付枠2名を加え、202名を支援該当者とした。

支援区分	応募者数	支援者数	はがき枠	合計	支援率
自立(就職)	234名	76名	1名	77名	32%
奨学(進学)	333名	108名	一名	108名	32%
障がい児	48名	16名	1名	17名	33%
合計	615名	200名	2名	202名	32%

(5) アンケート調査報告書

2016年度より実施した申請児童に対するアンケートでは、申請児童の現状、計画や不安なことなどのデータを集めることが出来た。アンケートを集計し、進路別、施設種別、男女別の割合をまとめてその結果を「応募者アンケート調査報告書」としてホームページに掲載した。

(6) 「未来のつばさナビ」贈呈

2016年度から2015年度自立奨学支援制度の支援者を対象として贈呈を始めた「未来のつばさナビ」は好評を博し、2016年度支援者へも贈呈した。自立生活に役立つ情報を32ページの冊子にまとめたもので、10月17日に対象者へ発送したほかに、今年度も引き続き財団ホームページに掲載した。

2. 団体向け支援事業

(1) 事業の広報と推進

2017年度から、団体向け支援事業の愛称を「未来のつばさ プロジェクト支援事業」とし、支援内容も一部改正した。

平成29年3月29日開催の諮問委員会にて実施要領を討議し、具体的には、支援対象団体、支援対象プロジェクトはそのまま、支援金額単位を30万円一律とし、支援件数を20件と増やし地域の少額な活動を対象とする特徴を出した。

また、前期は当年事業、後期は当年事業または来年度事業とし対象範囲を広めた。受付を2期(前期4月～5月、後期10月～11月)に分け受付を行った。この結果昨年と変わらず13件の支援を行った。

(2) 選考(審査)

選考手順	審査責任者	審査方法
第1次(受付票)	事務局	実施要項規程の対象事業、申請条件の適正を確認し、所定の申請書関連書類の送付
第2次(審査票)	理事、監事	審査基準による審査で適合案件を全役員へ回送し、審査を仰ぐ
最終	理事会	役員審査により支援団体と支援金額の最終決議を行う。

(3) 支援状況

	No.	団体名	事業名または事業内容	交付金額
前期 106万 5,680 円	1	特定非営利活動法人 静岡市里親家庭支援セ ンター	英国専門チームが作成した「フォースターリング チェンジ・プログラム」に基づく里親研修会 をモデル的に実施する。	30万円
	2	特定非営利活動法人 まきばフリースクール	自立援助ホーム利用の子どもに対し、直売 所にて接客体験・研修を行いたい。また、 直売所にホーム担当コーナーを常設させて もらい、自分たちで仕入れや販売を計画・ 実施できるようにする。	29万6,500円
	3	里母の会	里親制度の正しい理解、社会的養護への 関心を高めていくために、里親会における 女性(里母)リーダーを育成する。	30万円
	4	特定非営利活動法人 教育研究所	ボランティア職員が県内児童養護施設を訪 れ、カフェ形式で話しやすい状況の中で社 会に出る際に必要な一般知識を学ぶグル ープワークや進路相談などのカウンセリング を行う。	11万5,180円
	5	特定非営利活動法人 菊地ファミリーホーム	ファミリーホームに入所の子ども達のお友 達、学校や法人関係者、地域の皆様に、子 ども達や事業内容などを理解して頂くた め、バーベキューを通して実際の生活の現 場を見ていただき、リーフレットを配布する。	5万4,000円

後期 231万 1,900 円	6	特定非営利活動法人 こどもサポートネットあい ち	子どもの虐待防止アピールと一般の方へ理 解を求めるためのイベント。	30万円
	7	特定非営利活動法人 東京養育家庭の会	措置解除後の里子の自立のために当事者 間のつながりをつくる交流。	30万円
	8	特定非営利活動法人 Art for Children's SHINE	児童養護施設に暮らす就学前の幼児をキ ャンプ場に招待しアートセッションを楽しむ プログラム。	28万円
	9	公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリ ーンランド財団	5つの県にて児童養護施設に暮らす子ども たちに水辺の自然体験を提供する。	30万円
	10	特定非営利活動法人 いちごいちえ	社会に出た時の強み、また自立と自尊心を 持ってもらうために、卒園生向けの茶道資 格取得プログラム。	30万円
	11	特定非営利活動法人 いるかねっと	福祉型障がい児入所施設における無料学 習会マナビバ事業。虐待のため幼少期の 愛着形成がなされていないなどにより障が いと健常児の境界にある子どもたちが普通 学級への進学を目指すための学習事業。	29万8,900円
	12	埼玉性的虐待研究会	児童養護施設で暮らす子どもたちと施設職 員を対象とした、自分と他者をわける「境界 線」の大切さを教えるワークを実施し、結果 を整理し報告書としてまとめる。	23万3,000円
	13	愛知県里親会連合会	里親家庭の子どもたち(中高生以上)に自 立に向けての金銭感覚をやしなうためのセ ミナーと交流。	30万円

*No1～5の事業内容は広報誌「未来のつばさ(Vol. 24)」へ掲載

3. 広報活動事業

(1) 広報誌「未来のつばさ」

第24号を10月に発行した。約3500冊を、全国の児童養護関連施設、里親会、社会福祉協議会、行政の児童養護関連部署、児童相談所、寄付者(個人・団体)、団体向け支援事業の過去1年の支援団体、財団役員等関係者へ送付した。

(2) メルマガジン「つばさニュース」

「つばさニュース」は、登録者100名を超えた。2016年8月12日より毎月発行し、創刊から一周年となった8月には特別記念号として理事および評議員を代表して前田誠一理事および高橋温評議員の2名より「創刊一周年の言葉」として特別寄稿いただき8月号と9月号に掲載した。また、配信対象者を拡大し、寄付者のみならず、児童養護について知識を深めたい方、支援児童、自立した退所者、児童養護関連従事者の方々などを対象にさらなるコンテンツの向上・改善を図った。

メルマガ登録者数

	日付	楽天生命	一般	合計
		名	名	名
第9回	4月14日	37	22	59
第10回	5月12日	37	23	60
第11回	6月8日	37	28	65
第12回	7月14日	37	28	65
第13回	8月10日	37	38	75
第14回	9月8日	38	42	80
第15回	10月13日	37	47	84
臨時号	10月19日	37	47	84
第16回	11月10日	37	54	91
第17回	12月8日	37	57	94
第18回	1月12日	37	62	99
第19回	2月9日	39	64	103
第20回	3月9日	40	67	107

また、メルマガの登録者数を増やすために、登録案内チラシを2,800部作製し前年度自立奨学支援制度の支援対象者、寄付者及び今年度自立奨学支援内定者へ送付、審査ボランティアへ配布した。その他、広報誌裏表紙へ掲載し、メルマガ内アンケートへのプレゼント企画として財団オリジナルフリクションボールペンを作製した。

(3) オレンジリボン配布

子ども虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンを作製しオレンジリボン運動を応援する試みを行った。今年度は領収証に同封し寄付者へ発送した。

(4) その他

今年度も引き続き増沢理事にご協力いただき、事業と寄付についてのご案内パンフレット2000部を、子どもの虹情報研修センターで今年度行われたすべての虐待対応研修にて配布していただき、口頭でも財団の支援活動を広報していただいた。そのほか、助成財団センターデータベース更新、CANP AN(カンパン) FIELDS(公益活動団体データベース)更新、東京ボランティア市民活動センター掲載更新、杜の伝言板ゆるる掲載、東大阪市運営市民活動情報「スクラムは～と」掲載、北九州市民活動サポートセンター掲載、行政書士事務所ソーシャルデザインサポート補助金等情報ページ掲載等、財団事業の広報活動を行った。特に団体向け(プロジェクト)支援事業について、上記各掲載により問い合わせが増え、認知度が上がってきている。

4. 組織運営

(1) 各種委員会開催状況

開催日	委員会名称	審議事項
5月15日 5月22日	会計監査会 第1回理事会	平成28年度事業及び決算報告の監査 ① 平成28年度事業報告書と決算報告(案)の承認 ② 新理事・監事候補者選出 ③ 選考委員会規程の改定
		① 平成28年度事業報告書と決算報告の承認 ② 新理事・監事選任 ① 理事長の選定決議 ② 諮問委員の選任 ③ 選考委員の選出 ④ 団体向け支援事業2017前期最終決定の承認
6月8日 6月22日	定時評議員会 第2回理事会	① 2017年度自立奨学支援事業の運営協議 ② 2017年度審査会設置承認
		新評議員選任の決議 選考委員交替に伴う新任選考委員の選出
10月26日	第1回選考委員会	団体向け支援事業2017後期最終選考決議
11月13日 11月24日	臨時評議員会 第3回理事会 意見交換委員会 合同開催	2017年度自立奨学支援応募の最終選考 2017年度自立奨学支援、最終選考の承認 平成30年度事業計画及び予算について
	第4回理事会	
2月5日 2月13日 2月19日	第2回選考委員会 第5回理事会 諮問委員会(事業計画・運営委員会)	平成30年度事業計画及び収支予算の承認

* 審議事項は、主要な議案を記載した。

(2) ボランティア制度の確立

本年度も自立奨学支援制度の審査委員は多くのボランティアの尽力に助けられた。Bチームは延べ45名、Cチームは25名の協力をいただいた。

また、毎年行われている「書き損じはがき」収集活動も楽天生命株式会社の代理店の皆様を中心に昨年度の繰り越し分を含め35万円以上の寄付金となり、自立奨学支援の貴重な財源となった。今後も多くの方々へ呼びかけ、一般人参加の財団運営を目指したい。

(3) 税額控除対象法人の認証

内閣府より平成29年8月23日付で、当法人は税額控除対象法人の用件(PST要件)を満たすことが証明された。これにより、引き続き個人に対する所得税優遇について、所得控除に加えて税額控除も選択可能となった。

平成29年度 事業報告の附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 楽天 未来のつばさ